
開会の辞

御列席の皆様

「テキスト布置の解釈学的研究と教育」と公式に命名された私どものグローバル COE プロジェクトは、プロジェクト・チームの四年におよぶ研究と教育のたゆまぬ努力の甲斐あって、去る4月以来、五年計画プログラムの最後の年に入り、我々自身が設定した学問的ミッションの遂行に邁進して来ているところです。これから開かれる第12回国際研究集会は、このプログラムの一翼をになうものです。組織委員会はこれに「歴史におけるテキスト布置」という標題をつけました。歴史科学におけるテキストとその布置が主題であり、ここに御集りの報告者は、これをめぐって各自の研究成果を披瀝して下さることになっています。

ここで私はわが名古屋大学の博士課程の院生に、それぞれの研究課題を豊かにすべく参加を求めた本プロジェクトの参照枠を指摘したいと思います。われわれの学問的想定は以下のようなものです。「テキストはすべからず、独自の布置を構成している。その布置とは、テキストの展開過程の帰結としての“前テキスト”、他の諸テキストとの相互参照関係としての“間テキスト性”、テキストと結びついた発言や注釈の総体としての“メタ・テキスト”、テキストのジャンル帰属を指示する標題や、その物的体裁と組成が構成する“パラ・テキスト”などから成る。テキストは全て互いに関連をもって構成される様々なテキスト全体の結節点、交叉点として存在している。換言するならば、この種の布置の総体を包摂する広い意味のテキストとして存在する」。

中世の文字記録の布置の多様な側面について、私たちが一層深い認識を獲得してこの研究集会が明日幕を下ろすことを、私は確信しています。

私どもの学問的企てに関心を示し、ここに御参集いただいた報告者、関係者そして聴衆の皆さんすべてにお礼を申し上げます。わけてもこの研究集会の機会に、日頃の研究の果実を寛大にも提供下さる海外からお越しの5名の中世史家と友人に感謝いたします。そうした方々のお名前を、紹介と感謝の意をこめて報告順に挙げさせていただきます。ミシェル・ソー、ヘルムート・ライミッツ、シュテファン・エスダース、フランソワ・ブガール、イヴ・サシエの諸氏です。残念ながらライミッツ氏は事情があって太平洋を越えることは出来ませんでした。したがって、氏はご自身での参加は叶いませんでしたが、報告原稿を届けてくれました。同学者への氏の忠誠心に感謝し、氏が遠からず渡航を実現してくれるよう念願する次第です。

同じように若い日本人同僚諸氏、小澤実、菊地重仁、西村善矢、足立孝、加納修の諸氏にも感謝いたします。彼らはおそらく世界の若い大学人がそうであるように、日々大学の行政や教育の膨大な職務に追われています。このような恵まれない状況にもかかわらず、私どもの学問的企てに各自の研究成果をもって貢献してくれました。

最後に、同じように名古屋大学文学研究科の西洋中世史講座の私の後継者である加納修氏に、この国際研究集会を熱心に企画し、実現してくれたことに感謝いたします。私はまた同氏がグローバル COE の枠組みで歴史部門の最後の研究集会を実現するにあたって、支援して下さった全ての方々、野田ゆかりさん、重見晋也准教授、名古屋大学文学研究科西洋史研究室の学生諸君に感謝いたします。

ご清聴ありがとうございました。

グローバル COE プログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」拠点リーダー
名古屋大学大学院文学研究科特任教授 佐藤 彰 一